

労働災害で最も死者が多い業種は何？



深浦診療所 所長 吉岡 秀樹

毎日のように仕事上の事故などによる死者のニュースを耳にします。令和5年の労働災害死者数は755人（厚生労働省発表）となっていて、これでも過去最少なのだそうです。

最も死者数が多い業種はなんだと思いますか？
同発表によると、建設業が223人、製造業が138人、陸上貨物運送が110人、林業が29人となっています。建設業が一番多いように見えますが、実は異なります。
厚生労働省の発表は、「所轄労働基準監督署が調査により死亡労働災害を把握した際に作成する死亡災害報告により集計したもの」に限られています。つまり、労災事業場だけの統計なのです。
深浦町に多い、農業、漁業といった個人事業者の統計は反映されていないのです。
農業の死者数は、農林水産省が別に統計を取っていて、令和5年の農作業事故死者数は236人です。
漁業の死者数は、水産庁発表が別に統計を取っていて、令和5年の漁業における死者・行方不明者数は75人です。

それでは、それらを比較して表にして比較してみましょう。

	建設業	製造業	陸上貨物運送	林業	農業	漁業
就業人口	約480万	約1000万	約85万	約4.5万	約135万	約13万
死者数	223	138	110	29	236	75
就業者1万人当たりの死者数	0.5	0.1	1.3	6.4	1.7	5.8

死者数実数としては、農業が最も多く、就業者数当たりになると、林業、漁業、農業が危なそうだとわかります。

職員50人以上の事業場では、「産業医」を嘱託または専属で雇用することが法律で定められています。産業医は、健診結果やメンタルヘルスの問題だけではなく、騒音や照明や気温といった作業環境、化学物質の扱い、腰痛を防ぐ作業方法などの環境医学的・人間工学的なアドバイス、有害ガスや粉塵対策のアドバイスもします。
農業、漁業、林業の方々も個人的に産業医を雇うことは難しいと思いますが、事故や死亡者を減らすためには、産業医的な役割が不可欠です。
深浦診療所では、産業医資格を有する医師もいますので、その役割を担うことができます。病気に関するだけでなく、作業環境に関することなど、何かしらお役に立てることもあると思います。お気軽にご相談ください。

【お知らせ】

- マダニによるSFTF(重症熱性血小板減少症候群)について。今年令和7年7月に秋田県由利本荘保健所管内と北海道札幌市で感染患者が確認されました。まだ青森県では確認されていませんが、マダニに刺されて数日後に発熱、頭痛、筋肉痛などがあれば、医療機関を受診するようにお願いします。
- 深浦診療所では、10月から今年度のインフルエンザワクチン接種と新型コロナウイルスワクチン接種を開始しました。多くの方々の接種をお待ちしています。



私の元気の秘訣は、らしかる。

- ☑ 転倒・認知症予防
- ☑ 健康維持
- ☑ 病院退院後リハビリ
- ☑ 介護予防

らしかるはトレーニングジムのようなサービスです



新規で利用者様募集中

Laical 夕陽公園 ● 深浦港 ● 青森みちのく銀行 ● JR深浦駅

社会福祉法人 西寿会
リハビリ特化型デイサービス

リハジム Laical
らしかる

まずはご相談！ TEL 0173-82-0551
青森県西津軽郡深浦町字浜町137-1
http://www.hamanasuso.com

災害用ストーブが寄贈されました

9/18

青森県西部郵便局長会西津軽部会から災害用ストーブが町に寄贈されました。これは、郵便局窓口で町民と会話をしていた中で、災害に対する不安の声があったことから、災害時に使用するストーブを町へ寄贈することになったものです。

小田桐部会長は「自然災害はいつ発生するかわからない。今回は災害用ストーブを寄贈させていただいた。ぜひ活用してほしい」と町長へ目録を手渡しました。

町長は「災害に対して準備を進めているなかで大変ありがたい寄贈だと思っている。引き続き、町の取組にご協力いただきたい」と感謝の言葉を述べました。



目録を手渡す青森県西部郵便局長会西津軽部会の方たち



稲刈り収穫体験

9/24

深浦小学校5年生の児童14名が稲刈りを体験しました。

晴れわたる秋空のもと、船作地区にある村上哲也さんの水田に集まった児童は、「手を切らないように頑張ります」と元気にあいさつし、さっそく刃先がギザギザの稲刈りかまを手に、黄金色に実った「はれわたり」の稲刈りを始めました。

児童は慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、一株一株を丁寧に刈り取り、刈った稲を麻ひもで束ね、田の「ク口」(畦)に穂先をそろえて並べるまでを体験しました。秋らしいさわやかな気候の中、動く汗ばむ児童の姿も見られ、体験後には「稲刈りは楽しかったけど疲れた」と笑顔で話していました。

「認知症と共に生きるまち」づくりに関する覚書を締結しました

9/26

深浦町と株式会社いちいが、「認知症と共に生きるまち」づくりに関する覚書を締結しました。株式会社いちいは、深浦町を含む津軽地方で調剤薬局6店舗を運営しています。この協定は、相互に連携し、認知症の早期発見、治療、生活支援などの取組を強化・推進するものです。締結式には、平沢町長、吉岡深浦診療所所長、一井専務取締役が出席し、覚書に署名しました。

平沢町長は「町全体が認知症を理解し、支援に携わる人たちの活動を支えていきたい」と語りました。



覚書を交わした平沢町長(左)と一井専務(中央)、吉岡所長(右)

明治安田生命から寄付をいただきました

9/29

明治安田生命保険相互会社から深浦町へ町民の健康増進に役立ててほしいと寄付金が贈呈されました。

明治安田生命保険相互会社では「私の地元応援募金」として、従業員募金と会社からの寄付を合わせたものを、支社・営業所などが日頃お世話になっている自治体などへ寄付しています。

今年、町内3か所で開催された深浦けんこう講演会において、血管年齢測定や自律神経測定、ベジチェックなどの健康測定にご協力いただいております。町民の健康推進に貢献していただいております。



平沢町長へ目録を手渡す明治安田生命青森支社五所川原営業所の菱沼所長